



JFS 規格による食品安全管理で 信頼という新たな価値を！



JFS-B 規格適合証明取得 株式会社シーボーン・ジャパン（水産物加工会社）

株式会社シーボーン・ジャパン様は、滋賀県大津市に本社を構え、カナダ産水産物の輸入インポーター業務や水産品加工などを手掛けておられます。主にカナダからオマールエビを中心とした水産物を直輸入し、それらをホールセール（箱売り）と加工向けに分けた後、全国各地に出荷します。“生き物”に関しては生きたままの流通も可能なノウハウがあり、顧客の要望に応じて下処理・一次加工・二次加工まで行い、それを指定された温度で指定の場所まで配送する体制が構築されています。ホテルやレストランにも直輸入した商品を配送でき、配送の際に収穫量や価格変動に関する情報も合わせて伝達。問屋を介さずに販売することで、在庫のコントロールを行いつつ安価に商品を提供できることから、数多くの取引先が篤い信頼を寄せています。2022年にJFS-B規格適合証明を福岡工場において取得され、2023年には滋賀工場においてもJFS-B規格適合証明を取得されました。今回は、滋賀工場において新たに規格を取得された狙いと今後のビジョンについて、小澤祐司代表取締役社長・現場で取得に向けた動きを主導された八幡様にお話をうかがいました。

代表取締役
小澤祐司氏



—2022年に福岡工場においてJFS-B規格適合証明を取得されたのに引き続き、2023年には滋賀工場においてもJFS-B規格適合証明を取得されています。その理由をお聞かせください。

小澤社長（以下小澤）：福岡工場でJFS-B規格を取得した際、取得のメリットは十分に感じていました。しかし、滋賀工場で規格を取得するには大規模な改修が必要だろうと考えており、躊躇しておりました。創業以来、滋賀工場は増築を繰り返しており、規格に適合するか不安があったのです。そんな時に、必要な書類を蓄積し、社員の考え方を転換させれば、大規模な設備投資をしなくても取得は可能であるというご指摘をいただき、滋賀工場での取得にむけた動きをスタートさせました。

—滋賀工場においてJFS-B規格を取得したことに対するクライアントからの反応はどのようなものでしたか。

小澤：京都や大阪に近いこともあり、滋賀工場のクライアントにはホテルの購買担当者が少なくありません。JFSのことをご存じの方も多く「それなら安心してお願いできますね」といったお言葉をいただき、新しいお仕事のお話などもすることが出来ました。大阪万博を控

えた関西では高価格帯のホテルが相次いでオープンしていますが、そのようなホテルに対する営業活動においても、JFS-B規格の取得が大きな武器になっていると感じます。



—やはり、多くのクライアントが安全性を非常に重視していると感じますか。

小澤：それは非常に強く感じますね。ホテルの購買担当者の方の中には、滋賀工場まで視察に来られる方も少なくありません。当社のクライアントに限定されたものではなく、日本全体で食品安全に対する意識が高まっていると考えています。

—JFS-B 規格の取得に対する社員の反応はどのようなものでしたか。

小澤：最初は JFS-B 規格取得について疑問を呈する社員もいましたが、JFS-B 規格は書かれている内容も分かりやすく、実際に取得にむけた取り組みを進めていくと、現場の社員の反応も好転していきました。やはり、分かりやすさというのが JFS の大きな強みだと感じますね。

—福岡工場で JFS-B 規格を取得したご経験は滋賀工場での取得の際にも活かすことが出来ましたか。

小澤：十分に活かすことが出来たと感じています。福岡工場で先んじて社員の教育などを行っており、その内容を滋賀工場でも共有していました。そのため、優先的に取り組むべきことなども分かっていました。今回の取得に関して、福岡工場での経験が大いに活かしたと考えています。JFS-B に限らず何かしらの規格を取得するというのは簡単ではありませんが、一度取得してしまえば、その取得ノウハウを他の拠点にも活かすことが出来るというのは、意外と認知されていないことかも知れませんね。

—JFS-B 規格の取得には書類作成が重要になりますが、その負担は大きかったですか。

八幡：先んじて福岡工場で規格を取得しており、滋賀工場での取得に関しては、福岡工場で作成した書類をアレンジするようなやり方を採用しました。いちから書類を作ったわけではないので、そこまで負担には感じませんでした。書類の作成を担当した社員からも「書類を作るのは簡単でした」という声が届いています。

—JFS 規格を取得するためには費用も必要になりますが、今後の企業活動で十分に回収出来るという風にお考えでしょうか。

小澤：そのように考えています。食品安全への意識が高まっている状況で、企業として成長していきたいのなら、JFS 規格の取得は必須ではないでしょうか。現状維持のままでも良いと考えているのならともかく、企業として規模を拡大していきたいのなら、取得を前向きに検討するべきだと考えています。

—福岡工場、そして滋賀工場でも JFS-B 規格を取得されました。今後のビジョンをお聞かせください。

小澤：今後、海外から輸入した原材料を当社の工場加工し、それを海外在住の日系人のお客様にむけて販売したいと考えています。海外における日本の食品に対する評価は高いので、大きな可能性を感じています。当社の起源はカナダのバンクーバーにあるので、今度は彼の地に当社で加工した食品を届けるというのが目標です。このように具体的な目標を立てられるのも、JFS-B 規格を取得したからだと考えています。

—今回はありがとうございました。



Company Profile

社名 株式会社シーボーン・ジャパン
代表 小澤祐司
住所 〒520-0106
滋賀県大津市唐崎1丁目21番14号
創業 1986年11月15日
URL <http://seaborn.co.jp>